

令和7年度 南魚沼市立大崎小学校 国際科学校評価

指導の重点

外国語による言語活動をとおして、豊かな国際感覚やコミュニケーション能力、仲間を認め合う心を育てる。

1 児童・保護者・職員アンケートより

	評価項目	評価基準	年間評価	評価対象
成果	(1) 国際科の活動で、誰とでも楽しくコミュニケーション活動ができたか。	A：肯定的評価が80%以上	(1) A：96%	児童
	(2) 国際科の学習で、外国と日本の文化や伝統の違いを感じ、そのよさが分かったか。	B：肯定的評価が80%未満	(2) A：92%	
	(3) 国際科の授業を通して、英語や外国の文化に興味をもっている。		(3) B：71%	保護者
教育活動	(1) 「聞く」「話す」活動の充実のために、アクティビティや学習形態を工夫する。 (2) 外国の文化や伝統にふれ理解したり、日本の文化や伝統を英語で伝えたりする活動を行う。	A：実施した B：実施できなかった	(1) A (2) A	授業者
運営活動	(1) ALTとの授業打合せを丁寧に行い、コミュニケーションを図り、指導に生かす。 (2) 国際大学の学生など、外国の人と交流する機会を設ける。	A：実施した B：実施できなかった	(1) A (2) A	授業者

2 成果と今後の方針

(1) 成果

- 低学年は単語やよく聞く言葉を使ったゲーム、高学年は質問と答えを簡単な英文でやり取りする活動など、発達段階に応じた工夫のある学習を行い、英語でのコミュニケーションを楽しんでいた。
- 国際大学の学生との交流会を2回実施した。児童は様々な国の文化や歴史にふれることで新たな気付きが生まれ、興味をもったり、その良さを感じたりしていた。

(2) 今後の方針

- 令和8年度からの市の方針をふまえ、ゴールとなる言語活動を重視した授業実践に取り組んでいく。そのために、目的・場面・状況を工夫した単元構想を行うとともに、「書く」ことの指導を充実させた授業づくりを進める。
- 児童は国際大学の学生との交流を楽しんでいるため、出身国についての話を聞くだけでなく、引き続き学生と実際に交流する時間を確保した交流会を計画していく。